

令和元年度第3回横浜市強度行動障害支援力向上研修【基礎研修】

(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】) 募集案内

横浜市強度行動障害支援力向上研修【基礎研修】は、強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】としても位置付けられた研修であり、次により実施します。

令和2年2月6日(木)～令和2年2月7日(金) 2日間

定員：120名

会場：横浜市技能文化会館

カリキュラム・申込方法など詳細については、下記「令和元年度第3回横浜市強度行動障害支援力向上研修【基礎研修】(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】)実施要領」をご覧ください。

.....

令和元年度 第3回横浜市強度行動障害支援力向上研修【基礎研修】

(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】) 実施要領

1 目的

行動障害を有する者のうち、いわゆる「強度行動障害」を有する者は、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻回に示すことなどにより、日常生活に困難が生じているため、現状では事業所での受入れが消極的であったり、身体拘束や行動制限などの虐待につながったりする可能性も懸念されるところです。

一方、障害特性の理解に基づく適切な支援を行うことにより、強度行動障害が低減し、安定した日常生活を送ることができることが知られています。

このため、強度行動障害のある方の地域移行及び地域生活に向けた取組として、強度行動障害に係る支援手法の浸透や、適切な支援を行う職員の人材育成を目的とした横浜市強度行動障害支援力向上研修(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】)を実施します。

なお、本件研修は神奈川県より「強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)」として指定を受けた研修となっています。

2 日程・会場・研修カリキュラム等

別紙 「横浜市強度行動障害支援力向上研修【基礎研修】カリキュラム」 参照

3 定員

120名

4 受講対象者

次の（１）から（３）の要件を全て満たす者

- （１）横浜市内の障害福祉サービス事業所等において、知的障害、精神障害のある児者を支援対象にした事業に従事する者、もしくは今後従事する予定のある者、又は一次相談支援機関・二次相談支援機関に従事する者
- （２）２日間全ての日程を受講できる者であること。
- （３）所属している法人の推薦を受けた者

5 受講者の推薦・申込み

（１）推薦・申込について

- ・ 別紙「横浜市強度行動障害支援力向上研修（強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】）受講推薦及び申込書」に必要事項を記載の上、「申込書類確認書」を添えて法人でまとめて申込（送付）ください。
- ・ 申込多数になることが予想されるため、１法人20名（１事業所４名）までの申込とさせていただきます。
- ・ なお、申込書の法人内優先順位は必ず記載ください。法人内優先順位が未記載の場合や不適切な記載の場合（法人内優先順位１位が複数いる等）については、受講を見送りとさせていただきます。

（２）申込様式 別紙様式

※ ウェブサイト「障害福祉情報サービスかながわ（URL：<http://www.rakuraku.or.jp/shienhi/>）」の「書式ライブラリ」→「２．横浜市からのお知らせ」→「８ 研修・説明会等【横浜市】」に掲載します。

（３）返信用封筒の同封（受講決定等の通知に使用）

- ・ 定形郵便用封筒（長形３号：A４版用紙三つ折りが入るサイズ）を使用してください。
- ・ 140円切手を貼付してください。
- ・ 法人代表者宛てに宛名を記入してください。（宛名は〇〇御中又は〇〇様としてください。）

（４）申込方法 郵送

※ ファクシミリ、電子メール及び電話による申込は受け付けません。

（５）申込期限 令和元年12月25日（水）（必着）

（６）申込先 〒231-0047

横浜市中区羽衣町2-4-4 エバース第8 関内ビル5F

横浜市発達障害者支援センター 研修担当

※お手数ですが、封筒表面余白に「横浜市強度行動障害支援力向上研修 申込書在中」と記載願います。

6 受講者の決定

- 定員を大幅に上回った場合は、推薦された方の中から、法人内優先順位等を勘案し、申込の内容を審査した上で決定します。（先着順ではありません。）
- なお、「行動援護従業者養成研修」及び「重度訪問介護従業者養成研修行動援護支援課程」を修了していない方を優先して選考対象とします。
- 強度行動障害を有する方の支援に関する相談業務に従事している一次相談支援機関・二次相談支援機関の方も優先して選考対象とします。
- 行動援護業務に従事している方や従事しようとする方は、「行動援護従業者養成研修」の受講をご検討ください。
- 強度行動障害を有する方の適切な支援計画を作成できる職員を養成するための研修ですので、実務経験も考慮のうえ選考します。
- 受講決定については、1月10日頃までに各法人あてに通知をまとめて送付します。

7 修了証書の交付、修了者名簿の管理

- 本研修の全日程（2日間）を修了した方に、強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】修了証書を交付します。
- 本研修の修了者は、強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】の修了者名簿（修了証書番号、氏名、生年月日、所属等）として神奈川県に報告します。

8 受講料及び資料代

受講料は無料です。ただし、受講に必要な教材費等 5,500円は、受講者負担とします。（支払方法等詳細は、受講決定通知とともにご案内します。）

※ 会場までの交通費その他についても、受講者負担とします。

9 その他

- 遅刻及び早退は欠席とみなします。修了証書を交付できませんので、ご注意ください。通勤時間帯による混雑や天候等を考慮の上、余裕を持ってご来場ください。
- 著しく受講態度が悪く（私語、居眠り、携帯電話の使用等）、繰り返し注意された方には修了証書を交付できませんので、ご注意ください。
- 受講にあたり、手話通訳、点字教材、身体障害者用駐車場等を必要とする方は、受講申込書の所定欄に記載してください。
- 来場の際は、公共交通機関を利用してください。

（参考情報）今年度の横浜市強度行動障害支援力向上研修は今回が最終となります。
次年度の予定は令和2年6月中旬以降にお知らせする予定です。

10 研修に関する問合せ先

(本研修の申込手続き・実施等に関する問合せ先)

横浜市社会福祉法人横浜やまびこの里 横浜市発達障害者支援センター
〒231-0047 横浜市中区羽衣町2-4-4
エバース第8関内ビル5F
電話 045(334)7320
ファクシミリ 045(334)8619
研修事務局 西尾・宇山

(本研修に関する問合せ先)

横浜市健康福祉局障害企画課
〒231-0021 横浜市中区日本大通18KRCビル6階
電話 045(671)3604
ファクシミリ 045(671)3566
田辺・森山

横浜市強度行動障害支援力向上研修（強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】）カリキュラム

| 科目名 | 時間数 | 内 容 | | 講義名 | |
|-----------------------------|------|-----------------|-------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| I 講義 | 7.2H | | | | |
| 1 強度行動障害がある者の基本的理解 | 2.5H | ① 強度行動障害とは | 本研修の対象となる行動障害 | 「プロローグ～強度行動障害のある人についての基本的な理解～」 0.5H 「私たちのことを知ってほしい～強度行動障害に関する障害について～」 1H | |
| | | | 強度行動障害の定義 | | |
| | | | 強度行動障害支援の歴史的な流れ | | |
| | | | 知的障害/自閉症/精神障害とは | | |
| | | | 行動障害と家族の生活の理解 | | |
| | | | 危機管理・緊急時の対応 | | |
| | | ② 強度行動障害と医療 | 強度行動障害と精神科の診断 | 「医療と一緒に～福祉と医療の連携～」 1H | |
| | | | 強度行動障害と医療的アプローチ | | |
| | | | 福祉と医療の連携 | | |
| 2 強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識 | 4.2H | ③ 強度行動障害と制度 | 自立支援給付と行動障害／他 | 「支える仕組み～制度理解のヒント～」 0.6H | |
| | | | (例) 支援区分と行動関連項目・重度訪問介護の対象拡大・発達障害者支援体制整備・強度行動障害支援者養成研修 | | |
| | | ④ 構造化 | 構造化の考え方 | 「ボクらの世界とのつながり方～環境を整える事の大切さ～」 1H | |
| | | | 構造化の基本と手法 | | |
| | | | 構造化に基づく支援のアイデア | | |
| | | ⑤ 支援の基本的な枠組みと記録 | 支援の基本的な枠組み | 「みんなでやろうよ～チームプレイの大切さ～」 0.5H | |
| | | | 支援の基本的なプロセス | | |
| | | | アセスメント票と支援の手順書の理解 | | |
| | | | 記録方法とチームプレイで仕事をする大切さ | | |
| | | ⑥ 虐待防止と身体拘束 | 虐待防止法と身体拘束について | 「その時あなたは どうしますか～虐待・身体拘束・行動制限の予防は支援の質の向上から～」 0.6H | |
| | | | 強度行動障害と虐待 | | |
| | | ⑦ 実践報告 | 児童期における支援の実際 | 「支援の現場から～事例紹介～」 実践報告③(児童)0.5H 「支援の現場から～事例紹介～」 実践報告①②(成人) 1H | |
| | | | 成人期における支援の実際 | | |
| | | 3. その他 | 0.5H | | 「横浜市における行動障害のある方への地域移行及び地域生活に向けた方向性について」 0.5H |

| 科目名 | 時間数 | 内 容 | | 講義名 |
|----------------------------|-------|-----------------|-----------------|---------------------------------------------------------------|
| Ⅱ 演習 | 6H | | | |
| 1 基本的な情報収集と記録等の共有 | 1H | ①情報収集とチームプレイの基本 | 情報の入手とその方法 | 「お互いに共有しよう～記録と情報共有～」 0.5H 「知ることから始めよう～根拠を持って支援する～」 0.5H |
| | | | 記録とそのまとめ方と情報収集 | |
| | | | アセスメントとは | |
| 2 行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解 | 2.5H | ②固有のコミュニケーション | 様々なコミュニケーション方法 | 「わかりにくいんです。～伝わりにくさを体験しよう～」 1H 「やりやすくする～整えられた環境での活動～」 1.5H |
| | | | コミュニケーションの理解と表出 | |
| | | | グループ討議／まとめ | |
| 3 行動障害の背景にある特性の理解 | 2.5H | ③行動障害の背景にあるもの | 感覚・知覚の特異性と障害特性 | 「私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～」 1H 「本当の理由を考えよう～冰山モデルで考える～」 1.5H |
| | | | 行動障害を理解する冰山モデル | |
| | | | グループ討議／まとめ | |
| 合計 | 13.2H | | | |

令和1年度 横浜市第3回強度行動障害支援力向上研修(強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】)

タイムスケジュール

会 場：横浜市技能文化会館

| 日程 | 時間 | 配分 | 種別 | 講義名 | 講師(敬称略) |
|-------------------|-------------|-----|----|---------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 1日目 2/6 (木) | 9:10～9:25 | | | 受付 | |
| | 9:25～9:35 | | | 開会・ガイダンス | |
| | 9:35～10:05 | 30分 | 講義 | 「横浜市における行動障害のある方への地域移行 及び地域生活に向けた方向性について」 | 田辺 興司 横浜市健康福祉局 障害企画課 |
| | 10:05～10:15 | | 休憩 | | |
| | 10:15～10:45 | 30分 | 講義 | 「プロローグ～強度行動障害のある人についての基本的な理解～」 強度行動障害とは(1) | 米澤 巧美 社会福祉法人 横浜やまびこの里 |
| | 10:45～11:45 | 60分 | 講義 | 「私たちのことを知ってほしい～強度行動障害に関係する障害について～」 強度行動障害とは(2) | |
| | 11:45～12:45 | | 休憩 | | |
| | 12:45～13:25 | 40分 | 講義 | 「支える仕組み～制度理解のヒント～」 強度行動障害と制度 | 岡田 由起子 横浜市健康福祉局 障害企画課 |
| | 13:25～13:55 | 30分 | 講義 | 「みんなでやろうよ～チームプレイの大切さ～」 支援の基本的な枠組みと記録 | 齋藤 陽介 社会福祉法人 同愛会 |
| | 13:55～14:05 | | | アイスブレイク | |
| | 14:05～14:35 | 30分 | 演習 | 「お互いに共有しよう～記録と情報共有～」 情報収集とチームプレイの基礎(1) | |
| | 14:35～14:45 | | 休憩 | | |
| | 14:45～15:45 | 60分 | 演習 | 「私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～」 行動障害の背景にあるもの(1) | 椎原 聖児 社会福祉法人びぐれっと |
| | 15:45～16:45 | 60分 | 演習 | 「わかりにくいんです。～伝わりにくさを体験しよう～」 固有のコミュニケーション(1) | |
| | 16:45～16:55 | | 休憩 | | |
| | 16:55～17:25 | 30分 | 講義 | 「支援の現場から～事例紹介～」(通所施設) 実践報告①(成人) | 上村 祐作 社会福祉法人白根学園 |
| | 17:25～17:55 | 30分 | 講義 | 「支援の現場から～事例紹介～」(入所施設) 実践報告②(成人) | 竹内 宏大 横浜市松風学園 |
| | 17:55～18:10 | | | 事務連絡 | |
| 日程 | 時間 | 配分 | 種別 | 講義名 | |
| 2日目 2/7 (金) | 9:00～9:10 | | | 受付 | |
| | 9:10～10:10 | 60分 | 講義 | 「医療と一緒に～福祉と医療の連携～」 強度行動障害と医療 | 日原 信彦 横浜ハビリテーションクリニック |
| | 10:10～10:20 | | 休憩 | | |
| | 10:20～11:20 | 60分 | 講義 | 「ボクらの世界とのつながり方～環境を整える事の大切さ～」 構造化 | 幸田 栄 社会福祉法人青い鳥 |
| | 11:20～11:50 | 30分 | 講義 | 「支援の現場から～事例紹介～」(療育センター) 実践報告③(児童) | |
| | 11:50～12:50 | | 休憩 | | |
| | 12:50～13:20 | 30分 | 演習 | 「知ることから始めよう～根拠を持って支援する～」 情報収集とチームプレイの基礎(2) | 浮貝 明典 特定非営利活動法人 PDDサポートセンター |
| | 13:20～14:50 | 90分 | 演習 | 「本当の理由を考えよう～氷山モデルで考える～」 行動障害の背景にあるもの(2) | |
| | 14:50～15:00 | | 休憩 | | |
| | 15:00～16:30 | 90分 | 演習 | 「やりやすくする～整えられた環境での活動～」 固有のコミュニケーション(2) | 西部 真弓 社会福祉法人 横浜やまびこの里 |
| | 16:30～16:40 | | 休憩 | | |
| | 16:40～17:20 | 40分 | 講義 | 「その時あなたはどうしますか～虐待・身体拘束・行動制限の予防は 支援の質の向上から～」虐待防止と身体拘束 | 渡辺 弥美 横浜市健康福祉局 障害企画課 |
| | 17:20～17:25 | | | チェックリスト記入・回収 | |
| | 17:25～17:55 | | | チェックリスト解説 研修のまとめ | |
| | 17:55～18:10 | | | 修了証書授与・アンケート回収・閉会 | |

* タイムスケジュールは一部変更になる可能性があります

社会福祉法人 横浜やまびこの里

横浜市技能文化会館 会場案内図

■住所

〒231-8575 横浜市中区万代町2丁目4番地7

TEL 045-681-6551

■交通機関

JR京浜東北線・根岸線 関内駅下車 南口から徒歩5分

横浜市営地下鉄ブルーライン（伊勢佐木長者町駅）出口2から徒歩3分



「強度行動障害支援者養成研修（基礎研修・実践研修）」及び
「行動援護従業者養成研修」、「重度訪問介護従業者養成研修行動援護支援課程」
に係る Q & A

（強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）と（実践研修））

問 1 「強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）」と「強度行動障害支援者養成研修（実践研修）」とは、どのような関係にあるのか。

（答）

- ア 強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）は、強度行動障害を有する方への適切な支援を行う職員の人材育成を目的としています。標準カリキュラムとして、講義（6 時間）及び演習（6 時間）で構成されています（計 12 時間）。
- イ 強度行動障害支援者養成研修（実践研修）は、強度行動障害を有する方への適切な支援計画を作成することが可能な職員の育成を目的としています。標準カリキュラムとして、講義（4 時間）及び演習（8 時間）で構成されています（計 12 時間）。
- ウ 強度行動障害支援者養成研修（実践研修）の受講対象者は、強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）の修了者及び重度訪問介護従業者養成研修行動援護支援課程の修了者となります。

（強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）と重度訪問介護従業者養成研修行動援護支援課程）

問 2 「強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）」と「重度訪問介護従業者養成研修行動援護支援課程」とは、どのような関係にあるのか。

（答）

- ア 両研修は、同じカリキュラムであるため、重度訪問介護従業者養成研修行動援護支援課程の修了者は、強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）を修了している取り扱いとなります。また、逆も同様です。
- イ したがって、重度訪問介護従業者養成研修行動援護支援課程の修了者は、強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）を受講する必要はありません。

(行動援護従業者養成研修と強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)及び(実践研修))

問3 「行動援護従業者養成研修」を修了しているが、「強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)」及び「強度行動障害支援者養成研修(実践研修)」を受講修了する必要があるか。

(答)

ア 必須ではありません。「行動援護従業者養成研修」は、「強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)」及び「強度行動障害支援者養成研修(実践研修)」と同じカリキュラムとなっているためです。

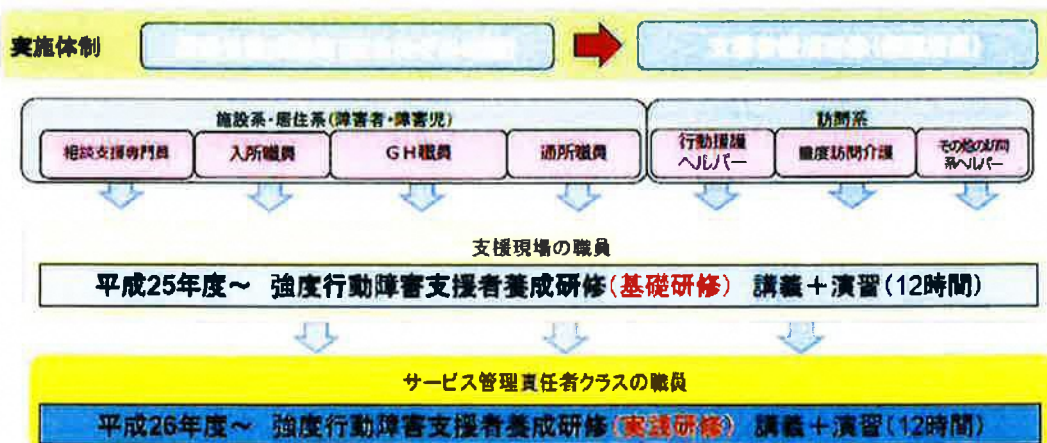
イ ただし、平成26年度以前に「行動援護従業者養成研修」を修了した者については、カリキュラムが見直されたことに伴い、改めて研修を受講する必要はありませんが、行動障害を有する者が重度訪問介護を利用するに当たっては、事前に行動援護従業者等によるアセスメントや環境調整を経る必要があることとされたことから、強度行動障害支援者養成研修(基礎研修及び実践研修)を受講することが望ましいとされています。

(平成27年3月6日厚生労働省障害保健福祉関係主管課長会議資料)

(参考) 強度行動障害を有する者等に対する支援者の人材育成について

強度行動障害を有する者は、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻回に示すことなどを特徴としており、このため、現状では事業所の受入が困難であったり、受入れ後の不適切な支援により、利用者に対する虐待につながる可能性も懸念されている。

一方で、施設等において適切な支援を行うことにより、他害行為などの危険を伴う行動の回数が減少するなどの支援の有効性も報告されており、強度行動障害に関する体系的な研修が必要とされている



(厚生労働省資料)